

交野市公共施設等再配置計画（素案）への意見に対する市の考え方

平成30年2月

意見の募集期間 平成29年12月4日～平成30年1月4日  
 意見の提出者数 9名  
 意見の提出件数 26件

	分類	意見	回答
1	認定こども園について	<p>計画では、民設民営による移転とされています。しかし、条例によって設置されたこども園を、その廃止条例の制定もなく廃止し、民設民営による移転することを決定しているように見受けられます。今まで、市が民営化について出している案には法的根拠の説明がないと感じており、今回の計画においては、決定事項として示されているため、こちらが黙っているまま不利益を被るのではないかと少し懸念しています。</p> <p>計画案には、市が計算したコストや今後の展望を示すのみではなく、前提となる法的根拠について、具体的に示して情報提供していただきたいです。</p>	<p>交野市立認定こども園民営化基本方針の策定過程において、第1認定こども園（あまだのみや）と第3認定こども園（くらやま）の両園を民営化対象園の選定のため比較検証し、第1認定こども園を民営化対象園とすることを市として決定しました。</p> <p>このことから、本計画におきましても、第1認定こども園を民営化する施設として民設による移転により教育・保育施設としての機能を確保するとして記載をしております。</p> <p>なお、交野市立第1認定こども園を廃止する条例改正につきましては、移管法人が決定された後に条例改正を行う予定であります。</p>
2	認定こども園について	<p>ため池を埋め立てる予定ですめられていますが、場所を指定して事業者を募集するより、事業者が設置場所を決めたり、既存の市の管理地を活用したりする方法もあると思います。</p> <p>例えば、私市小学校の敷地は広く、池を埋め立てるよりコストもかからないと思います。また、子どもたちの多くはスムーズに小学校にあかれるのではないかと思います。</p>	<p>在園児や保護者への環境変化による負担を最大限少なくする観点から、市の資源等を活用して事業者にインセンティブを付与し、必要な敷地面積を確保する考えのもと、現在のあまだのみや幼児園から近い立地条件である森新池を移転候補地として選定しております。</p>
3	パブリックコメントの再実施について	<p>再配置計画（素案）では、本庁舎を建て替えし、庁舎機能を集約化するとしています。青年の家・星田出張所は、施設更新を行わず、本庁舎更新時に機能を確保し施設の集約化・複合化を図るとともに、民間施設や既存施設の有効活用について検討するとしています。また、別館・第2別館の建物は機能の複合化や他目的に転用を検討するとしています。</p> <p>しかし、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①庁舎機能のどこまでが集約化されるのか。</li> <li>②庁舎機能を集約した建物がどこに建設予定なのか。</li> <li>③集約別のコスト比較がどうなのか。</li> <li>④そもそも機能集約化が必要なのか。ワンストップサービスの内容はなにか。</li> <li>⑤施設・機能の集約化が市民の利便性に反することはないのか。</li> <li>⑥青年の家の現在地での建て替えが不可能なのか。</li> <li>⑦青年の家の文化・スポーツ活動の機能がどこに移るのか。</li> <li>⑧星田出張所の機能はどこに移るのか。</li> <li>⑨別館・第2別館の機能はどのようになるのか。</li> </ul> <p>多くの事が明らかになっていない再配置計画（素案）となっています。このように明らかでない事項が多い中で、パブリックコメントを行うのは適当でないと考えます。</p> <p>また、各庁舎をどこに移転するのか、どの機能が付加されるのか明らかになっていない状況では、再配置計画とは言えません。明らかにした上で、再度の市民説明会とパブリックコメントの実施を求めます。</p>	<p>再配置計画（素案）は、将来の人口動向を見据え、良質かつ持続可能な公共施設サービスを実現するために、施設重視から機能重視の観点で、将来のまちづくりを見据えた施設再配置の方向性を、機能面での評価、ハード面での評価、今後の施設活用の可能性について検討した結果から示したものです。</p> <p>その具体的な再配置の場所や機能の質や量などは、今後、具体的に進めていくにあたり、利用団体等の意見とともに、改めて市民アンケートやワークショップなど、市民の意見をお聞きしながら検討を進めてまいります。</p>
4	パブリックコメントの再実施について	<p>市民が生涯学習などに利用している青年の家・星田出張所については、利用者の意見を丁寧に聞いた上で、再度の再配置計画（素案）を策定し、パブリックコメントを行うことを提案します。</p>	<p>本計画素案は、施設を所管する部署とのヒアリングや、市民ワークショップでの意見を踏まえて策定しております。</p> <p>今後、具体的に進めていくにあたっては、必要な機能は確保することとしておりますので、利用団体等の意見とともに、改めて市民アンケートやワークショップなど、市民の意見をお聞きしながら進めてまいります。</p>

	分類	意見	回答
5	利用者の意見の把握について	青年の家は、図書施設とともに、長い間、文化祭や文化行事の中心としてホールや各部屋が利用されてきました。この統廃合を言うならば、まずこの利用者に意見を聞くべきではありませんか？	本計画素案は、施設を所管する部署とのヒアリングや、市民ワークショップでの意見を踏まえて策定しております。 今後、具体的に進めていくにあたっては、必要な機能は確保することとしておりますので、利用団体等の意見とともに、改めて市民アンケートやワークショップなど、市民の意見をお聞きしながら進めてまいります。
6	パブリックコメント内容説明会の再実施について	2017年の12月に突然このような計画がされていることを知りました。説明会も12月8・9日の2日間しか開催されず、急なため、都合が悪く、聞きに行くことができませんでした。ごみ有料になる時は、地域別に数か所・時間をかけての説明があり、市民の声を聞くという姿勢だったのに、なぜもっと時間をかけて市民の声を聞けないのでしょうか？説明会をもう一度開催してください。	本説明会は、本市のパブリックコメント制度の実施基準にはありませんが、内容に考慮して、パブリックコメントの実施に合わせて説明会を2回実施したものです。 今後、具体的に進めていくにあたっては、利用団体等の意見とともに、改めて市民アンケートやワークショップなど市民の意見をお聞きしながら進めてまいります。
7	市民合意形成について	それぞれの公共施設の機能の見直しと街づくりの観点で、「第4次総合計画」作成の時、「夢づくり会議」やそれを中心に各地で「井戸端会議」という形で住民の意見を聞く会がおこなわれましたが、今こそ、それを再現することが必要と考えます。 今回の「交野市公共施設等再配置計画」の前提になる「総合計画」がつくられその過程で「市民アンケート」が行われ、市民の関心度や利用度の調査が行われていますが、最初に書いたように、一般市民にとって公共施設という設問は、非常に身近に感じることはできません。いわゆる役所が身近にないというのも問題ですが、そういう意味で、このアンケートをもって市民の声を聞いたというのは不十分と考えます。 (素案)にある、青年の家・星田コミニティーセンターの廃止は大きな問題ですが、それ以外は、集約化・複合化という形で、それぞれ方向のみが示され、今すぐ賛否を決めるというのではなく、(素案)に対するパブリックコメントをとって審議会に戻し、「交野市公共施設等再配置基本計画」とし、その後の本庁や個々の施設の建て替えや統廃合をスムーズに進めたいという考えと思われませんが、本庁の建て替えをはじめとする、「個別計画」への住民への情報公開や合意をどのようにされるかが明確に示されていません。 さらに、(素案)には、前回、パブリックコメントがおこなわれ、過去最大の意見が寄せられた「第一認定子ども園の民営化」が明示されていますし、「ワークショップ」が予定されている「小・中学校の学校規模適正化や小中一貫教育」なども含まれています。 「第一認定子ども園の民営化」はパブリックコメントを提出し、3園しかない公的な子育て支援施設を削減することは反対との立場を明記しましたが、「小・中学校の学校規模適正化や小中一貫教育」なども、拙速に進めることなく住民の要望を聞くべきと考えます。特に学校統廃合は、地域のコミニティにとっても重要な問題です。 そのうえで、(素案)に書かれている集約化・複合化の方向についてですが、一般的にすべて反対の立場をとるものではありませんが、具体的計画の段階でメリット・デメリットを明確にしたうえで住民合意を得る必要があります。 さらに、複合化については、パブリックコメントにも書きましたが、「認定こども園」になる前から、交野は「幼稚園」という形で「幼保一元の保育」が行われてきました。 いわゆる「保育所と幼稚園」との施設複合化が行われてきました。保育の中身としては、「保育所」も「幼稚園」も「指導要領」は共通の考えに基づいて行われてきましたが、保育所の最大の機能である、「親が働き続けることを保障する」ということが弱くなっているということが指摘されています。 ゼロ歳から5歳児までの、6歳の年齢の中で、従来は、4・5歳のクラスだけがいわゆる長時間児・短時間児と一緒に育てられるというだけで、そういった問題が生じます。 図書機能についても、「計画」でも(素案)でも学校施設への複合化が言われていますが、説明会でも元教師の方が、指摘していたように、小学生にとっての図書、中学生にとっての図書、まして幼児を含めた一般にとっての図書は異なります。 現在の学校図書室は、司書の資格を持った人の配置が少ないということもあり、有効に活用されていないとの報告がされています。 先に指摘した、地域の図書機能の充実と合わせて改善の必要があります。 今回の「公共施設再配置計画」は「役場をもう一度市民に取り戻す」という意味で重要な課題です。 強引に押し進める不安が起らないよう十分情報の公開を行い、市民合意を得るために努力されることをお願いします。	本計画素案は、施設を所管する部署とのヒアリングや、市民ワークショップでの意見を踏まえて策定しております。 今後、具体的に進めていくにあたっては、利用団体等の意見とともに、改めて市民アンケートやワークショップなど、市民の意見をお聞きしながら進めてまいります。

	分類	意見	回答
8	市民意見の反映について	<p>「交野市公共施設に関する市民ワークショップ」に市民公募に応じて参加したメンバーです。市民ワークショップは、一般公募市民8名、各種団体13名、市職員4名で構成され、6月・7月・8月・10月の4回開催されました。1回目は「①子育てしやすい街にするには？ ②コミュニティを活性化するには？ ③災害に強い街にするには？」をテーマに、2回目は「現状施設の具体的な問題点・課題点は？ 解決策を考える」をテーマに、3回目は「老朽化が進む庁舎、学校にバリアフリーや耐震性を確保し、他の機能を付け加える（複合化する）ことができるとしたら、あったらいいなと思う機能。こんな施設になったらいいなと思うこと」をテーマに、4回目は「分散している庁舎を集約化し、さらに他の機能を付け加える（複合化する）としたら、期待するものは？不安に思うことや困ることは？市役所を建て替えるとしたら、どんな場所がいい？」をテーマに開催されました。</p> <p>今回のワークショップは、参加者が3班に分かれ、出されたテーマに基づき、参加者の意見をポストイット（小さな用紙）に記入し、模造紙に張り付け、各班で出された意見を発表するだけのものでした。</p> <p>ワークショップは「公共施設の現状を把握するための現場視察」や「公共施設の利用状況等の詳しい資料提供」が行われないうちで開催され、正しい状況把握や判断ができない状況での意見提出となりました。また、参加者の意見交換や議論の機会がなく、参加者が最初に思った意見を出すだけに終わり、深めることが出来ないワークショップでした。私たちは、交野市の公共施設のあり方を議論し、より良い方向を考えるために参加しました。しかし、ワークショップの内容は、私たちの思いから随分かけ離れたままで終わりました。</p> <p>現在、交野市公共施設等再配置計画（素案）が公表され、パブリックコメントが実施されています。今回の再配置計画（素案）は、本庁舎の建て替え、青年の家の本庁舎への集約化等が記載されており、大変驚いています。ワークショップでは、「庁舎を複合化する場合、どのような機能を付け加えたらよいか」についてポストイットに意見を記入しました。しかし、「庁舎の建て替えや青年の家の施設更新を行わないこと」の説明もなく、参加者からの意見表明や議論もありませんでした。</p> <p>私たちは、このような経過のもとで「交野市公共施設等再配置計画（素案）」を公表し、パブリックコメントを実施することに納得がいきません。今回の素案を撤回し、形だけの市民参加でなく、市民の意見が十分に議論され、計画案に反映されるように、再度つくり直すことを求めるものです。</p>	<p>本計画素案は、施設を所管する部署とのヒアリングや、市民ワークショップでの意見を踏まえて策定しております。</p> <p>今年度のワークショップでは、結論を導き出すものでなく、反対意見も制約することのない中で、参加者から自由に様々な意見・アイデアを出していただき、再配置計画策定にあたっての参考とさせていただきます。</p> <p>今後、具体的に進めていくにあたっては、利用団体等の意見とともに、改めて市民アンケートやワークショップなど市民の意見をお聞きしながら進めてまいります。</p>
9	施設再編の方向性について	<p>「集約化でワンストップサービスの実現」と記載されているが、集約化により市民の住居より遠くなれば不便になる可能性があります。市民の身近に公共施設があることが必要との立場を持つべきと考えます。</p>	<p>集約化は、現在分散している庁舎機能について検討を行うものであり、今後、市民の皆様の利用性に十分配慮した整備を検討してまいります。</p> <p>なお、コミュニティ機能、図書館機能、子育て支援機能、スポーツ機能といった身近に必要な機能・サービスについては、新庁舎または学校施設等を核とした各地域での拠点形成による充実を図ってまいります。</p>
10	施設再編の方向性について	<p>（素案）では、「地域の必要な機能を集約化・複合化し、地域住民が一日地域活動や交流活動等が出来る、地域コミュニティのための拠点」のひとつとして学校施設を位置付けています。しかし、学校施設は、小学生 中学生の教育施設です。地域住民の地域活動や交流活動のためのものではありません。児童生徒の教育活動を第一にして考えるべきです。</p>	<p>学校施設における複合化については、教育環境の一層の向上に資する整備を進めるとともに、児童生徒の安全性を確保することが必要であると考えております。</p> <p>このことから、現状の学校施設のまま複合化を実施することは、安全面においても困難であると考えられることから、将来的に施設更新時に複合化に対応した計画性のある校舎配置バランスと地域の実情に応じた機能導入などについて教育委員会とともに検討してまいります。</p>
11	施設再編の方向性について	<p>「小中一貫教育」の実現が図られています。しかし、小中一貫教育を実施する施設一体型の小中一貫校では、小学上級生が自信を持っていないなど否定的な調査結果が明らかとなっています。施設一体型の小中一貫校は建設すべきでないと考えます。</p>	<p>本計画素案では、具体的な施設一体型の小中一貫校の建設について計画したものではありません。学校施設については、現在策定中の学校規模適正化基本計画及び学校施設等管理計画に基づき進めてまいります。</p>

	分類	意見	回答
12	施設再編の方向性について	「学校を日常の活動拠点として日頃から利用していることで、災害時の防災拠点として、より機能できるものとする」としているが、災害時は学校を緊急時として利用するのは当然と考えるが、日常の活動拠点とすべきでないと考えます。	学校施設を児童生徒の安全性を確保しながら、地域住民の活動の場とし、地域住民にとって最も身近な公共施設とすることによって、緊急時に、使い慣れた施設としてスムーズに利用できるようにすることも狙いとしております。 学校施設の複合化については、計画性のある校舎配置バランスと地域の実情に応じた機能導入などについて教育委員会とともに検討してまいります。
13	施設再編の方向性について	星田コミュニティセンター・出張所などは 地域性も考慮しながら、民間施設や既存施設の有効活用についても検討していきます。と書いてありますが、星田で民間施設というと星田会館の事でしょうか？ 昨年 星田会館は耐震改修をしました。もしそこで星田出張所や図書館・文化教室の部屋などを借りるのでしたら、あわせて 星田会館のホールを借りあげて・響きのよいホールに改修することも検討する様にしてください。星田地域には音楽練習室も、演奏会をするホールもありません。 文化施設・福祉施設・交通アクセスどれをとっても、星田は田舎なのです。	星田出張所及び星田コミュニティセンターの機能の確保において、具体的な場所や手法については、地域の意見もお聞きしながら、星田会館の活用も含め今後検討してまいります。
14	施設再編の方向性について	交野市は将来的に人口が減少する予測のもと、公共施設の効率化にむけて多種多様な計画案を提案されました。計画案を見る限り交野市に住む魅力を感じません。どこにどんな施設が必要か、住民が何を（どんなものを）望んでいるのか耳を傾けもっと調査してほしいと思います。これまでも市は、自治会館（コミュニティセンター）や文化施設に力を入れてこなかった気がします。 星田駅北開発に市の財産が使われると聞いています。公共施設も考えて大切な税金の使い方をしてほしいです。 市役所本庁の移転・建て替えは、場所や資金面などについて市民理解のもとで実施を望みます。 青年の家は、建物の廃止には反対です。同様な施設、より充実した内容に変わるよう望みます。	コミュニティ機能、図書館機能、子育て支援機能、スポーツ機能といった身近に必要な機能・サービスについては、新庁舎または学校施設等を核とした各地域での拠点形成による充実を図ってまいります。 今後、庁舎建替えや青年の家の機能確保を具体的に進めていくにあたっては、利用団体等の意見とともに、改めて市民アンケートやワークショップなど市民の意見をお聞きしながら進めてまいります。
15	施設再編の方向性について	「本庁舎の更新時に機能の集約化・複合化を図る」とはどのようなことか、具体的に説明してほしい。本庁舎の更新以外に具体的な計画はないのでしょうか。（67ページ） こども園の民営化で子どもの予算を削ること、青年の家の将来構想を示さないのは交野の文化の火を消すことにつながります。 市民負担を増やして積立金を増やし続け、その積立金を本庁舎の更新に使われてはたまったものではありません。	「本庁舎の更新時に機能の集約化・複合化を図る」とは、対象とする施設が有する機能・サービスについて、庁舎の建て替えの際に、機能の集約化・複合化を図るとともに、地域性を考慮しながら民間施設や既存施設の有効活用も検討することです。 また、本庁舎の建替えについては、熊本地震の被害状況を踏まえ、防災拠点として庁舎機能の確保が求められている中、本庁舎は耐震の安全性が今まで後回しとなっていたため確保されていないことから、その対策を含め優先的に考えております。
16	施設再編の方向性について	具体的な代替案もないまま、青年の家・青年の家図書室をなくすことを固めてしまわないでほしい。 青年の家は、駐車場は手狭なものの、交野市のまほ中心に位置し、駅からも近く、公共交通を利用したり、徒歩でも集まることができます。図書室が併設されているので文化を深めることができる適切な施設であります。 その青年の家が本計画（素案）の中で、①現建物の更新はしないこと ②本庁舎の更新時に機能の集約化・複合化を図ること ③図書館についても本庁舎または学校施設の更新時に併せて機能を確保する（その機能は、核となる図書館機能として配置する）とされました。 これらの機能を新庁舎に集約化・複合化するとすると、どれほどのサイズの新庁舎になるのでしょうか。道路を含む基盤整備や区画整理も合わせると、一体どれだけの市税が費やされることになるのでしょうか。 今ある施設をできるだけ活かし、行政の出先機関や文化施設や集える施設（公民館のようなもの）をできるだけ市民の身近にすることが交野の発展のために必要ではないでしょうか。 青年の家の弱点は、バリアフリー化ができていないことで、耐震性は確保されているなかで、新市庁舎建設ありきのスタンスが、交野市民が育ててきた文化の拠点を廃棄し、4か所に広がった図書館・図書室を学校の中に閉じ込めてしまうプランを市職員の手で提案させる事態を招いたと考えます。	今ある施設をできるだけ活かすということは当然根底で考えてはいますが、あわせて限られた財源の中での老朽化対策や施設保有量の削減も考える必要があります。 青年の家は、大規模な修繕や改修を行って来ておらず、老朽化が進んでいる現状を踏まえると既存施設の長寿命化は現実的ではないと考えております。 また、図書館機能については、施設の複合化と学校図書館の活用の検討だけではなく、利便性や地域性を考慮しながら民間施設や既存施設の有効活用についても検討してまいります。

	分類	意見	回答
17	施設再編の方向性について	<p>保育所・幼稚園や学校・放課後児童会施設を減らすと、少子化に歯止めがかかりません。行政がかかわりながら、きめ細やかな子育て支援を進めること、子供の貧困化対応も視野に入れながら、放課後施策を進めることが鍵であり、統廃合は論外です。</p> <p>① 小学校は、小規模化しないように小中一貫教育や学校規模の適正化・適正配置を検討する。</p> <p>② こども園は、第1認定こども園は民営化、第2認定こども園は学校施設との複合化、第1児童センターは学校施設との複合化、地域子育て支援センターは民間施設や既存施設の有効活用</p> <p>③ 放課後児童会12施設は、施設の複合化が示されています。</p> <p>他市の事例をみても、行政がかかわりながら保育所・幼稚園行政を進めているところでは、人口のV字回復の実績が出ています。</p> <p>交野市も働く女性や働きたい女性、共働きで働かなければと考える若い世代層が激増しています。</p> <p>公立のこども園を最低3園持続させてこそ、子育てしやすい街交野、自然とのふれあひの中で子育てできる街交野、という魅力を高めることができると考えます。</p>	<p>第一認定こども園（あまだのみや保育園）の民営化については、「交野市立認定こども園民営化基本方針」で示されているとおり、従来の公立の保育を継承していくことを基本として、公立だけでなく、民間を含めた全市的な教育・保育の質の向上を図ることを目指しております。</p> <p>学校施設については、児童生徒の教育環境の維持向上と、さらなる少子化の影響による学校の小規模化や学校の老朽化の課題、小中連携から小中一貫教育への流れ、今後の児童生徒数の増減を見据え、学校規模の適正化及び学校の適正配置について検討するものであり、統廃合を前提としておりません。</p> <p>放課後児童会については、放課後児童健全育成を図る施設としての機能は引き続き確保します。現施設の大半が学校施設と併設・複合化されていますが、将来的には、学校施設の更新に併せて、より計画性のある施設の複合化を検討していくこととしております。</p>
18	施設再編の方向性について	<p>新市庁舎中心の街づくりは、街の中心部に富裕層高齢者が移り住み、周辺部の衰退を招きます。行政の集中ではなく、10小学校区単位で行政がもう少し地域化し、高齢者福祉施策や子育て施策が展開できる交野を目指すべきです。</p> <p>新市庁舎中心の街づくりは、相当な税金投入が必要となるだけでなく、その市庁舎を取り囲む居住地は、それなりに高価な住宅地・高価なマンションになることが想定されます。若者の過半数が非正規雇用となっている現実の中で、若者層が中心となった街づくりが進むでしょうか。中心部に住むことができるとすれば、一定の高収入を得てきたシニア層になるでしょう。では、そうした層が20年後も30年後も住み続けるでしょうか？甚だ疑問であるか、否という答えになるでしょう。</p> <p>20年後も30年後も住み続けたい街交野を考えるなら、スクラップアンドビルドというゼネコン本位のコンパクトシティの道はとらず、子育てや高齢者福祉を大切に行政が必要です。そうすれば、女性や若者が地域で働く場所を得ることが可能になると思います。就労先を交野で増やすことを考えることがどうしても必要です。新市庁舎への機能集中や学校機能の複合化は、仕事づくりに逆行します。</p> <p>今回のパブリックコメントは確かに施設問題ではありますが、問われているのは、交野市の将来ビジョンだと思います。求められるのは、市民が大いに議論することだと思います。これまで築いてきた「住み続けたい街交野」「文化の街交野」「教育の街」「里山とおいしい水の街交野」の看板は掛け続けてほしいと思います。そして、今回の議論を機に、市民のネットワークが深まり、幼少期の子育ての面でも高齢者福祉面でも、行政と市民がタイアップして子育て支援の仕事ができる街交野・高齢者や障害者福祉の仕事ができる街交野が定着するよう、尽力いただきたいと思います。</p>	<p>交野市の将来ビジョンについては、「第4次交野市総合計画みんなの“かたの”基本構想」で示されている通りであり、目指す姿に変更はございません。</p> <p>施設再配置については、良質かつ持続可能な公共施設サービスを実現するために、将来のまちづくりを見据え、市民との協働により進めてまいります。</p>
19	施設再編の方向性について	<p>本庁舎は建替え工事の検討ではなく、長寿命化工事の検討をして下さい。</p> <p>本庁舎はまだ築46年しか経過していません。本来なら築40年のH23年に大規模修繕工事が行われて長寿命化工事が完了しているはずですが、資料では工事未実施となっています。大規模修繕工事は実施されていないのでしょうか？青年の家や星田出張所についても築年数は同じですので、長寿命化の検討をお願いします。</p>	<p>本計画素案27ページ、修繕・改修サイクルの設定を踏まえてのご意見と認識しますが、本庁舎は、ここで示している築後20年の中規模改修及び築後40年の長寿命化改修といった予防保全を施せておらず、老朽化が進んでいます。</p> <p>また、青年の家と星田出張所も同様であり、さらに、本庁舎と星田出張所は、耐震安全性の確保もされていない現状も踏まえると既存施設の長寿命化は経済的観点からも現実的ではないと考えております。</p>
20	施設再編の方向性について	<p>青年の家を「集約化」で無くするのではなく、存続する方向で検討して下さい。</p> <p>青年の家は駅から近いという好条件があるので、利用者が多いと思っています。青年の家を「地域の拠点となる施設」として構築して下さい。</p>	<p>青年の家は、大規模な修繕や改修を行ってきかず、老朽化が進んでいます。さらに、バリアフリー化の課題もある現状を踏まえると既存施設の長寿命化は現実的ではないと考えております。</p> <p>機能確保については、本庁舎の更新時には機能を確保するとともに、地域性を考慮しながら民間施設や既存施設の有効活用についても検討し、サービスレベルの維持向上を図ってまいります。</p>

	分類	意見	回答
21	施設再編の方向性について	青年の家・星田コミニティーセンターの図書館・倉治図書館の図書機能ですが、寝屋川、枚方などの周辺自治体の図書機能と比べて大きな差があるといわれています。図書の中身や新刊に対する対応、読み聞かせや、幼児の遊び場など大きな違いがあるといわれています。更に、開館時間については、「働いている人は利用できない」の声が上がっています。 施設の統廃合よりも、これらの声に応えた機能の充実こそが急がれるべきだと思います。	コミュニティ機能、図書館機能、子育て支援機能、スポーツ機能といった身近に必要な機能・サービスについては、新庁舎または学校施設等を核とした各地域での拠点形成による充実を図るとともにサービス内容の充実についても検討してまいります。
22	地域での機能の充実について	本計画（素案）で言われている本庁の建て替えについてですが、確かに、ワークショップでは、さまざまな意見が出ました。建て替えが必要としても、現在の位置にある歴史と本庁機能が分散化してきた経過を5つの文化ゾーンと公共施設の関係で評価する必要はあるのではありませんか？ どこの中につくられるとしても他の文化ゾーンに対しては、街づくりの観点から、住民に近く支所機能が重要です。 「管理計画」のP. 61、方針② 機能の向上による地域拠点化 ◆現状と課題では、5つの文化ゾーンについて各地域とも地域の拠点となる機能の配置がなされていないと評価されていますが、それが具体的に何を指しているのかは明確ではなく、庁舎機能だけをさしているとは思いますが、コンビニで住民票が取れるからそれでいいとは、ならないと思います。 ほかの施設の活用が考えられている星田コミニティーセンターを含めて廃止よりむしろ充実が望まれるのではありませんか？	コミュニティ機能、図書館機能、子育て支援機能、スポーツ機能といった身近に必要な機能・サービスについては、5つの文化ゾーンも勘案しながら、新庁舎または学校施設等を核とした各地域での拠点形成による充実を図ってまいります。
23	施設の集約化について	今日の高齢化社会で地方公共団体が、住民の福祉の増進を図るには機能の集約ではなく分散が時代に合ったものと言えます。まして交野市はゆうゆうバスを3台から2台に減らした上に京阪バスの減便や減便計画にも有効な手段を示していません。星田出張所の機能を本庁舎に移し更に本庁舎を現在より公共交通機関の利用に不便なところに移転するのは住民福祉の後退であり不便を強いるものです。再配置計画にある地域性の考慮は手軽に行き来できることを最重要視して現在より不便にならないようにしてください。	星田出張所の機能の確保において具体的な場所や手法については、地域の意見も聞きながら、利便性も考慮し今後検討してまいります。
24	記述が理解不能な点を改善すること	P88（2）市庁舎の位置付けのイメージで「市庁舎の位置付けについては、次のイメージが考えられます」と記載されて、3つのケースが例示されているが、なぜ3つに収斂するのか、論理が不明。例えば、枚方市、寝屋川市等近隣市どこの市を例にとっても、これらのケースに当てはまらず、この3つのケースを例示する意味がわからない。前提とする客観的な事実も、論理構成も不明で議論が飛躍しており理解不能。ファクトとロジックによる記述に変更すること。	市庁舎と複合化する機能、敷地の規模、敷地の位置等によって市庁舎の位置付けが変わるというイメージを示した例示であります。 3つのイメージに収斂しているような誤解を招かないように修正いたします。
25	記載されているデータが不十分なため追加すること	寝屋川市の公共施設整備・再編計画（改訂版）と対比しながら本市の計画を見ると、「取り組みを行わなかった場合、必要となる経費」と「取り組みにより必要な経費」「財政効果額」が記載されている一方、本市の計画はそれら判断に必要なデータが記載されていない。よって、「継続使用」「施設撤去」などの結論が、なぜそのような結論に至ったのか分からないので、これらのデータを追加すること。	本計画では、各施設について、①機能面での評価、②ハード面での評価、③今後の施設活用の可能性の各観点から総合的に検討した結果をお示ししております。 これらの判断の基となった主要なデータについては、第3章、第4章でお示ししております。
26	計画の作り直し	この計画を実行したとしても、市全体の年更新費用は15.9億円で、財政ライン(5~11億円)までコストを削減できていないのだから、そもそも計画が破綻している。P91に対応策が書かれているが、であるならばこの対応策を盛り込んで計画を作り直すこと。計画を実行しても目標が達成できないのであれば、この計画は紙くずにすぎない。 よって、財政ラインまでコストを削減できていないのだから、計画を作り直すこと。	将来コスト試算は、本計画期間における優先的な取組を盛り込んだ結果となっております。 現時点においては、財政制約ラインとの乖離が残っていますが、P91に示した対応策についてさらに精査を進め、計画の実施期間中にこのギャップを埋めていくための取組を進めてまいります。